

# 《第16回》

## 銭湯検定4級問題

(解答時間：100分)

- 問1) ( ) 入浴法は、一部のアスリートの間で体力作りに利用されている。  
①カゼインプロテイン ②ホエイプロテイン ③ヒートショックプロテイン
- 問2) 江戸時代の銭湯の、浴室から湯船のある部屋に入る時にくぐる低い入り口は ( ) である。  
①牡丹口 ②琵琶口 ③石榴口
- 問3) 銭湯の ( ) を5月、6月くらいから2～3週間続けて利用すると、真夏に熱中症の心配のない体になる可能性がある。  
①薬湯 ②炭酸泉 ③サウナ
- 問4) 江戸時代、江戸の銭湯では元旦や節句などの特別な日(紋日)には、 ( ) 風習が生まれた。  
①客が湯屋におひねりをわたす  
②入浴料を無料にする  
③夜通し営業する
- 問5) ( ) の改善で回復する筋緊張性頭痛には、入浴が有効である。  
①リンパの流れ ②脈拍 ③血流
- 問6) 大阪における銭湯経営者のルーツとして多いのは富山、石川、 ( ) である。  
①新潟 ②岐阜 ③福井
- 問7) 「ケロリン」の桶が登場したのは ( ) のことである。  
①明治30年 ②大正10年 ③昭和38年
- 問8) 銭湯で浴室の排水の余熱を利用して水の温度を高める装置を ( ) と呼ぶ。  
①調節器 ②下風呂 ③温水器
- 問9) 江戸時代初期の銭湯で、垢すりや髪すきのサービスを提供した女性を ( ) と呼んだ。  
①女郎 ②湯女 ③女中
- 問10) 蛇口のことをカランというが、その語源はオランダ語で ( ) を意味する。  
①蛇 ②ライオン ③鶴

- 問11) 京都の西本願寺には( )が作ったといわれる風呂が現在も保存されている。  
①織田信長 ②千利休 ③豊臣秀吉
- 問12) 東大寺の大湯屋に残る、鉄製の湯船を鎌倉時代に铸造したのは( )である。  
①重源 ②最澄 ③鑑真
- 問13) 江戸時代の江戸と大坂の銭湯の構造を、図や絵を用いて解説している書物は( )である。  
①浮世床 ②守貞謾稿 ③雨月物語
- 問14) 江戸の銭湯の営業時間は( )までと定められていた。  
①日没の30分前 ②日没の30分後 ③夜の9時まで
- 問15) 江戸時代の銭湯では、6月に暑気払いのために湯船に( )の葉を入れる習慣があった。  
①みかん ②梨 ③桃
- 問16) 足利尊氏の軍勢に追われた後醍醐天皇を里人がここにお隠しした、との言い伝えがあるのは( )である。  
①瀬戸の藻風呂 ②八瀬の窯風呂 ③今治の石風呂
- 問17) 湯船につかることによって関節や筋肉への負担を軽くすることを、( )効果という。  
①温熱 ②浮力 ③静水圧
- 問18) 江戸時代、女性は顔や体を洗う際、美白のためにヌカに( )を混ぜて使った。  
①ウグイスの糞 ②そば粉 ③うどん粉
- 問19) 銭湯の数が一番多かった昭和40年頃、全国で( )が営業していた。  
①約7000軒 ②約2万3000軒 ③約4万5000軒
- 問20) カゼをひいても発熱しにくい人が増えているが、それは( )が悪いためである。  
①消化機能 ②新陳代謝 ③肺の血流
- 問21) 2002年の実験で、いわゆるジェットバスに被験者が1日30分、2週間続けて入浴したところ、早期の( )の予防効果が期待される結果となった。  
①脳血栓 ②アルツハイマー性認知症 ③前立腺がん

- 問22) 富士山の背景画発祥の銭湯「キカイ湯」は、( )にあった。  
①新宿区牛込柳町 ②墨田区両国 ③千代田区神田猿樂町
- 問23) 入浴時の洗髪でシャンプーを( )と抜け毛の予防になる。  
①よく洗い流す ②少なめに使う ③多めに使う
- 問24) 川柳「湯屋の白波真黒につらをぬり」の「白波」とは( )のことである。  
①酔っ払い ②痴漢 ③泥棒
- 問25) 昔、銭湯の浴槽は木で作られていたが、木製の浴槽を扱う職人を( )と称した。  
①穴蔵屋 ②宮大工 ③船大工
- 問26) 家庭の小さな湯船で入浴すると、窮屈なため体の緊張が解けにくく( )が続く。  
①迷走神経が活発な状態  
②副交感神経優位の状態  
③交感神経優位の状態
- 問27) 日本にシャボン(今の石けん)が伝わったのは( )のことである。  
①室町時代後期から安土桃山時代 ②明治時代 ③大正時代
- 問28) 江戸時代に書かれた銭湯経営のマニュアルを( )という。  
①浮世風呂 ②世間胸算用 ③銭湯手引草
- 問29) 入浴は、睡眠にとって重要な「( )を調節する機能」にいい影響を与える。  
①心の状態 ②血圧 ③体温
- 問30) 皮膚の血流量を増やすには、例えば10分入浴するなら( )に分けるほうが効果が高い。  
①3分・3分・4分 ②2分・6分・2分 ③8分・1分・1分
- 問31) 「町なかには銭湯があつて、湯が沸けば角笛を鳴らしてこれを告げ、人々は湯銭を払って入浴する」と室町時代の日本の様子が描かれているのは( )である。  
①吾妻鏡 ②世宗実録 ③日蓮御書録

- 問32) 「入込み湯」とは、( )ことを意味する。
- ①喧嘩が多い風呂屋の  
②男女混浴である  
③身分に関係なく同じ湯につかる
- 問33) 銭湯の起源といわれる光明皇后の施浴は、( )に描かれている。
- ①日本書紀 ②慕婦絵詞 ③東大寺大仏縁起絵巻
- 問34) 「フロは多分、ムロと同じ語」と述べた民俗学者は( )である。
- ①折口信夫 ②南方熊楠 ③柳田國男
- 問35) 1994年に北大で行われた入浴実験で、体の表面温度をサーモグラフィーで測ったところ、大浴槽とジャグジー風呂は小浴槽に比べ、( )がうかがえた。
- ①保温効果が高いこと  
②発汗量が多いこと  
③リラックス効果が高いこと
- 問36) 銭湯で初めて登録有形文化財に指定されたのは( )である。
- ①燕湯 ②源ヶ橋温泉 ③小杉湯
- 問37) 保湿剤は軟膏、クリーム、ローションに大別されるが、( )が違うだけである。
- ①「どれだけ肌への吸収力がいいか」  
②「どれだけ刺激性があるか」  
③「どれだけしっとりしているか」
- 問38) 関東大震災当時、東京の銭湯は約970軒あったが( )余りが焼失した。
- ①230軒 ②630軒 ③910軒
- 問39) 幕末に来日した外国人で、銭湯のお湯について「摂氏50度は極めて普通で時にはもっと高い」と著書に記したのは( )である。
- ①ペリー ②ポムペ ③ハリス
- 問40) 明治期から昭和20年まで銭湯の取り締まりは( )の管轄だった。
- ①保健所 ②警察署 ③消防署
- 問41) 銭湯の浴室に現在のようなタイル張りが現れたのは( )である。
- ①明治10年頃 ②大正10年頃 ③昭和20年頃

- 問42) 東京でよく見られる「宮造り銭湯」は( )に多く建てられた。
- ①江戸末期～明治初期  
②明治初期～大正初期  
③大正末期～昭和30年代後半
- 問43) 江戸時代、番頭が客の桶に汲んでくれるきれいなお湯を( )といった。
- ①桶湯 ②留湯 ③岡湯
- 問44) 冷え性の人は( )の量が少ないため体内で熱が作りにくい傾向がある。
- ①筋肉 ②血液 ③呼吸
- 問45) 『魏志倭人伝』によると、3世紀ごろ、日本人は災いをもたらすあらゆるものを「穢れ」と考え、それを清めるための風習として( )を行った。
- ①座禅 ②禊 ③護摩
- 問46) 入浴前に( )を飲むと血液中のカテキン濃度が高まり、美容効果が期待できる。
- ①ビール ②牛乳 ③緑茶
- 問47) 天正19年(1591)、江戸の銭瓶橋のたもとに( )出身の与市という者が建てたものが江戸銭湯の発祥である。
- ①伊勢 ②尾張 ③駿河
- 問48) 江戸の銭湯では2階が地域の社交場として利用されたが、( )という決まりがあった。
- ①囲碁・将棋は禁止 ②刀の持ち込み禁止 ③客は男性に限定
- 問49) 明治時代の銭湯が移築保存されているのは( )である。
- ①江戸東京たてももの園 ②日光江戸村 ③明治村
- 問50) 半身浴ダイエットを継続すると、一度増加した( )が徐々に下がり始めることがわかった。
- ①基礎代謝量 ②体重 ③発汗量

ふりがな 氏名	生年月日	年	月	日
住所				
電話番号				

問1	1	2	3	問26	1	2	3
問2	1	2	3	問27	1	2	3
問3	1	2	3	問28	1	2	3
問4	1	2	3	問29	1	2	3
問5	1	2	3	問30	1	2	3
問6	1	2	3	問31	1	2	3
問7	1	2	3	問32	1	2	3
問8	1	2	3	問33	1	2	3
問9	1	2	3	問34	1	2	3
問10	1	2	3	問35	1	2	3
問11	1	2	3	問36	1	2	3
問12	1	2	3	問37	1	2	3
問13	1	2	3	問38	1	2	3
問14	1	2	3	問39	1	2	3
問15	1	2	3	問40	1	2	3
問16	1	2	3	問41	1	2	3
問17	1	2	3	問42	1	2	3
問18	1	2	3	問43	1	2	3
問19	1	2	3	問44	1	2	3
問20	1	2	3	問45	1	2	3
問21	1	2	3	問46	1	2	3
問22	1	2	3	問47	1	2	3
問23	1	2	3	問48	1	2	3
問24	1	2	3	問49	1	2	3
問25	1	2	3	問50	1	2	3

解答用紙は返却しませんので、必ずコピーをとり郵送してください。  
採点後に合否通知書などを郵送いたします。

## 【第16回銭湯検定4級試験実施要領】

期間:2024年5月1日~10月31日(予定)※当日消印有効

### ● 受験資格

学歴・年齢・性別・国籍等の制限はありません。ただし、合格証の送付先が日本国内である方に限ります。

### ● 受験料 2,500円

● 合格基準 50問中35問以上正解の方を合格とします。

### ● 受験方法

① 2~6ページの50問の解答を7ページの解答用紙に記入してください(正解の番号を1,2,3から1つ選んで○をつけてください)。

② 解答にあたり、書籍・インターネットなどで調べてもかまいません。ただし、電話等による関係機関へのお問い合わせはご遠慮ください。

③ 受験料2,500円を郵便振替でご送金の上、領収証のコピーを解答用紙に同封して下記あてに郵送してください。

### 【郵便振替】

口座番号:00100-4-763221/口座名:日本銭湯文化協会

※備考欄には「住所」「氏名」「電話番号」のほか「4級試験受験料」と必ずご記入ください

### ● 解答用紙送付先

〒101-0031 東京都千代田区東神田1丁目10番2号 東浴ビル内

一般社団法人 日本銭湯文化協会「銭湯検定」係

TEL 03(5687)2635

### ● 合格発表

毎月末までに協会事務局に到着した解答について、翌月の15日頃までに合否通知を発送いたします。

なお、合格者には、カードサイズの合格証を同封いたします。